



牧村 範康 議員

学校給食について

～衛生管理とアナフィラキシー(アレルギー) ショックへの対応は～

学校給食における、今日までの異物混入の際の対策はどのようなになっているか。

教育長

現在、学校から給食センターへ、年数件の異物混入の連絡が入り、その際は両者で協議し異物を除去するなどの方法で解決してきた。可見市での事案を踏まえ、11月末に危機管理マニュアルを作成した。今後、学校からの連絡を受けた際、所長が学校へ出向き、教育委員会との確な状況判断のもとに被害の拡大を防ぐ。また、食中毒発生の未然防止等、衛生管理に全力で取り組んでいる。



爪ブラシで二度洗い(学校給食センター)

食物アレルギーの児童の給食に関してどのような対策をとっているのか

教育長

現在、エピペンを常時携帯している児童は1名。食物アレルギーと診断され報告のある児童生徒は、小学校で10名、中学校で5名です。毎月の献立表に基いて、食べられない食材を学校に報告。その後、全教職員が把握して日々確認している。設備の関係で除去食対応はできない。食べられない食材が多い場合、家庭から持参する場合もある。

学校での食物アナフィラキシーへの対応は万全と言えるのか。医療行為であるエピペンの処置を全教職員や部活動指導者などが必要に応じエピペンを緊急対応出来るよう使用講習を行いマニュアルを作成すべきではないか。

教育長

今年8月に郡の保健研修総会で校長、保健主事、養護教諭レベルのエピペン使用講習を行った。今年度中に各校で実施予定である。

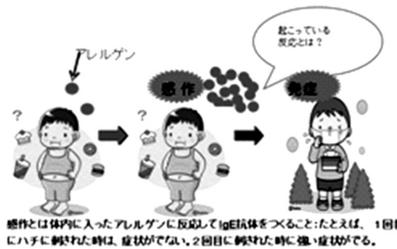
アレルギーショックは、本人が自覚していなくても起きるケースもあるため、自覚し

ていない児童生徒へもこの情報を伝えていくことが必要である。アレルギー・アナフィラキシー等の児童生徒間、保護者への情報伝達に関してはどのようなお考えになっているのか。

教育長

毎年2月中旬にすべての保護者に確認している。アレルギー疾患を自覚している場合

食物アレルギー症状が出るまでのステップ



食物アレルギー症状のいろいろ



揖斐郡保健研修総会資料より抜粋

のみ学校生活管理指導表を作成し個別に懇談している。また、家庭からのその報告に基づいて担任だけでなく全職員で共通理解を図り、事故防止に万全を期するように努力している。

地産地消を軸に食材の選定などによる質の高さが池田町の学校給食の特徴である。今後もこの質の高さを保つべきと考えるが、4月から消費税が5%から8%に引き上がるが、生産コストの上昇にどのような対応をするのか。食育の観点からも、給食の質を保つために、現在の給食費の見直しや補助金での対応を検討すべきではないか。

町長

地産地消は今後も継続していきたい。4月の段階では値上げはしないが、副食等で対応せざるを得ない。ただし、10%になった場合には改めて協議する。

アナフィラキシーとは
人や他の哺乳類で認められる急性の全身性かつ、重要なI型過敏性アレルギー反応の一つ。
エピペンは
植物アレルギーなどによる、アナフィラキシーに対する緊急補助治療に使用される医薬品(注射)。